

日本政治の課題と展望

―参院選の行方、その後は？―

毎日新聞 論説室専門編集委員

佐藤 千矢子

- * 石破政権が補正予算を実現させた枠組み
- * 軸足は国民民主から維新へ
- * お寒い議論、膨らむ予算
- * 低迷する支持率、限定的だった小泉効果
- * 都議会選では都民ファーストが第1党に
- * 自民党はワーストに次ぐレベルの議席数か
- * 焦点となった物価高対策と外国人政策
- * 日本人ファーストを掲げる参政党
- * 受け身の不安定政権が続く
- * 派閥が機能しなくなったデメリットも



山縣 それでは開会いたします。

本日は、毎日新聞論説室の専門編集委員をされている佐藤千矢子さんにお越しいただきました。参院選直前でありたいへんお忙しいところ、ご無理を言ってきたきました。

佐藤さんは、ワシントン特派員、編集委員、論説委員、全国紙で女性として初めての政治部長を務められ、編集編成局総務という、新聞づくりと編集局全体のマネジメントの総責任者をされた方であります。最近の情勢を細かく分析されていらつしやるので、それをベースにお話しいただきたいと思っております。

では、よろしくお願いたします。（拍手）

佐藤 こんにちは。ご紹介にあずかりました、毎日新聞の専門編集委員をしております佐藤千

矢子と申します。論説室専門編集委員、まだるっこしい肩書だなど思われた方がいらつしやると思いますが、論説委員と同じです。

私は、今年1月に還暦の誕生日を迎えて、いったん毎日新聞を定年退職になりました。そこから雇用形態が変わりましたが、論説室の所属で仕事は今までの論説委員とまったく変わりません。日々、20人ぐらいの仲間と一緒に毎日2時間ぐらい、今日の社説は何にしようかと議論をしている。

去年もそういう話をさせていただきましたが、いつも社説は2本掲載しています。今日はこの社説2本にしようと思ったら、2時間みんな議論をして、政治ネタだったら私みたいな政治部出身者が書き、経済ネタだったら経済部出身